



予算特別委員会で集中質疑

新型コロナウイルス対策の抜本的強化を

3月6日、予算特別委員会で新型コロナウイルス対策の抜本的強化を求めて集中質疑を行ないました。

マスク不足が深刻化
区備蓄品の提供を要請

区内の医療機関、民間保育施設、高齢者施設等において、マスクや消毒液が不足し、備蓄が底を尽きかけているとの切実な声が多数寄せられています。区として備蓄している約77万枚のマスク等を提供するように求めました。

この要請に対し、区長は区内のマスク不足の実態を認め「区が備蓄しているマスクの配布をどうやるか。(庁内に)積算を命じている」と答弁。



予算特別委員会で集中質疑。

都に対しては、マスク提供等の要望を出していると示しました。党区議団としても、原田都議を通じて、都へのマスク提供を求めています。

情報提供体制の強化を

新型コロナウイルス対策は、日々状況が変化しており、相談対応窓口の周知や感染拡大防止に関する情報は、インターネット以外に紙媒体の配布や掲示等の様々な手法を活用し、高齢者世帯等にも速やかに情報提供を進めることを求めました。

質問と答弁の詳細は、杉並区議団ホームページをご覧ください

新型コロナウイルス感染症についてアンケートへのご協力をお願いします

日本共産党杉並地区委員会新型コロナウイルス対策本部・日本共産党東京都議会議員原田あきら事務所は、新型コロナウイルス感染症についてのアンケートを実施しています。みなさんからお寄せ頂いた声は、新型コロナウイルス対策に反映します。ご協力をよろしくお願いいたします。

折り込みアンケートにご回答ください。日本共産党東京都議団ホームページでも回答できます。

新型
コロナウイルス
アンケート

各学校の判断の尊重を

区は「今後、チラシ等を作成し、庁内施設等の配布を現在検討しており、委員のご指摘も踏まえ、そちらも併せて検討したい」と答弁しました。

臨時休校により、学校現場にも重大な影響が生じています。学年末の授業、行事は子どもにとつてかけがえのないものです。春休みまでの休校を既定のものにせず、状況を科学的に、また適切に判断し学校再開を検討すると共に、子ども・保護者・教職員の納得のいく形で学校運営を実施できるように、各校の判断を尊重することを求めました。教育委員会は「今後状況の変化に応じて変更する」と答弁しました。引き続き、さらなる対策の拡充を求めます。

荻窪税務署（旧あんさんぶる荻窪）

住民の要望が実現 屋上が公園に！

当時の屋上の様子



（仮称）荻窪5丁目公園整備概要

- 所在地：荻窪 5-15-13 ■面積：754㎡
- 開園時間：9時～17時
（土日祝、年末年始除く）
- スケジュール：2020年5月公園整備工事。
8月に公園開設予定。

そうしたなかで、ようやく国から開放に向けた提案があり、区が屋上施設などを借り受け、立休都市公園として整備することとなったものです。党区議団は、引き続き子どもたちの遊び場の確保に取り組んでいきます。

住民の切実な声が国を動かす

荻窪駅南側は、園庭のない保育施設がほとんどで、あんさんぶる荻窪の外階段と屋上は子どもたちの貴重な遊び場になっていたことから、地元住民や保育関係者からは、税務署になった後も子どもたちや区民の利用を可能にして欲しいと要望が出されていました。

党区議団も昨年、国に開放を求めよと区に迫り、地元の方々も何度も税務署に要請に出向くなど、働きかけを続けてきました。

財産交換で廃止された地域の拠点

あんさんぶる荻窪は、福祉事務所や児童館、集会所、屋上庭園などを備えた複合施設として、多くの区民に利用されていましたが、田中区長が天沼3丁目にあった荻窪税務署と財産交換を強行。2018年3月に廃止されてしまいました。

荻窪税務署（旧あんさんぶる荻窪）の屋上は、都市公園として整備されることになりました。

杉並区ホームページ こまめなチェックを！

新型コロナウイルス感染症情報は杉並区ホームページをご覧ください。随時、更新されており、こまめなチェックをお願いします。

今週のコマ

議会でも新型コロナ対応

現在、予算特別委員会の真っ最中です。この委員会は議員全員と理事者の100名近くが一室にこもり、一日中質疑を行ないます。そのため、感染拡大防止の観点から、入室人数を減らし、入れ替わり交代制で質疑を行なっています。前例の無い事態に、区議会でも頭を悩ませながら、対応にあたっているところです。委員会の様子は杉並区議会ホームページからご覧になれます。

外環道工事 また、重大トラブル 野川（調布市）で気泡が発生…

3月7日15時30分頃、調布市入間町付近の野川の水面において、外環道工事に由来する新たな漏気が発生したことを国・事業者が公表（3月11日付け）しました。地下40メートルのトンネル工事の掘削箇所からシールド工事で用いる空気が地中を通じ、河川に漏出したことによるものです。

この間、工事ともなう酸欠ガスや地下水の地上への発生が相次いでいます。今回については「添加材や圧力を調整し安全な掘進方法を確認しながら掘進」するとして進められている工事エリアにおいて、新たな漏気が発生したものであり、深刻な事態です。

漏気を抑制する手立てがないまま、なし崩し的に工事が進められています。漏気を止められないのであれば、工事を停止すべきです。

○野川の様子（R2.3.7撮影）



東京外環プロジェクト
ホームページより。
3月11日に公表。